

BCG ワクチンが認知症リスク低下と関連

BCG ワクチンは結核の予防のためのワクチンであるが、近年、筋層非浸潤性膀胱がんに対する治療にその接種が推奨されている。さらに、アルツハイマー型認知症および関連認知症のリスクを低減するとの報告もあるが、これらの報告はサンプルサイズや研究デザイン、解析方法に問題があった。そこで本研究では、筋層非浸潤性膀胱がんの患者を対象に、BCG ワクチン接種がアルツハイマー型認知症および関連認知症のリスク低下と関連するかを検討した。

1987年5月28日から2021年5月6日に筋層非浸潤性膀胱がんと診断された50歳以上の患者6,467例が対象となった。3,388例がBCG ワクチン治療を受け（BCG 群；平均年齢69.89歳・男性76.9%）、3,079例がBCG ワクチン治療を受けなかった（対照群；同70.73歳・男性70.7%）。解析の結果、BCG ワクチン治療とアルツハイマー型認知症および関連認知症のリスク低下に関連が認められ（ハザード比0.80）、70歳以上でBCG ワクチン治療を受けた場合はよりリスクの低下が大きかった（ハザード比0.74）。

したがって、膀胱がん患者において、BCG ワクチン治療はアルツハイマー型認知症および関連認知症のリスクを有意に低減することが示された。

出典：Journal of the American Medical Association. Network Open. 2023; 6(5): e2314336.